

都市再生整備計画 事後評価シート
熊本型コンパクトシティ形成地区

平成29年1月31日

熊本県熊本市

様式2-1 評価結果のまとめ

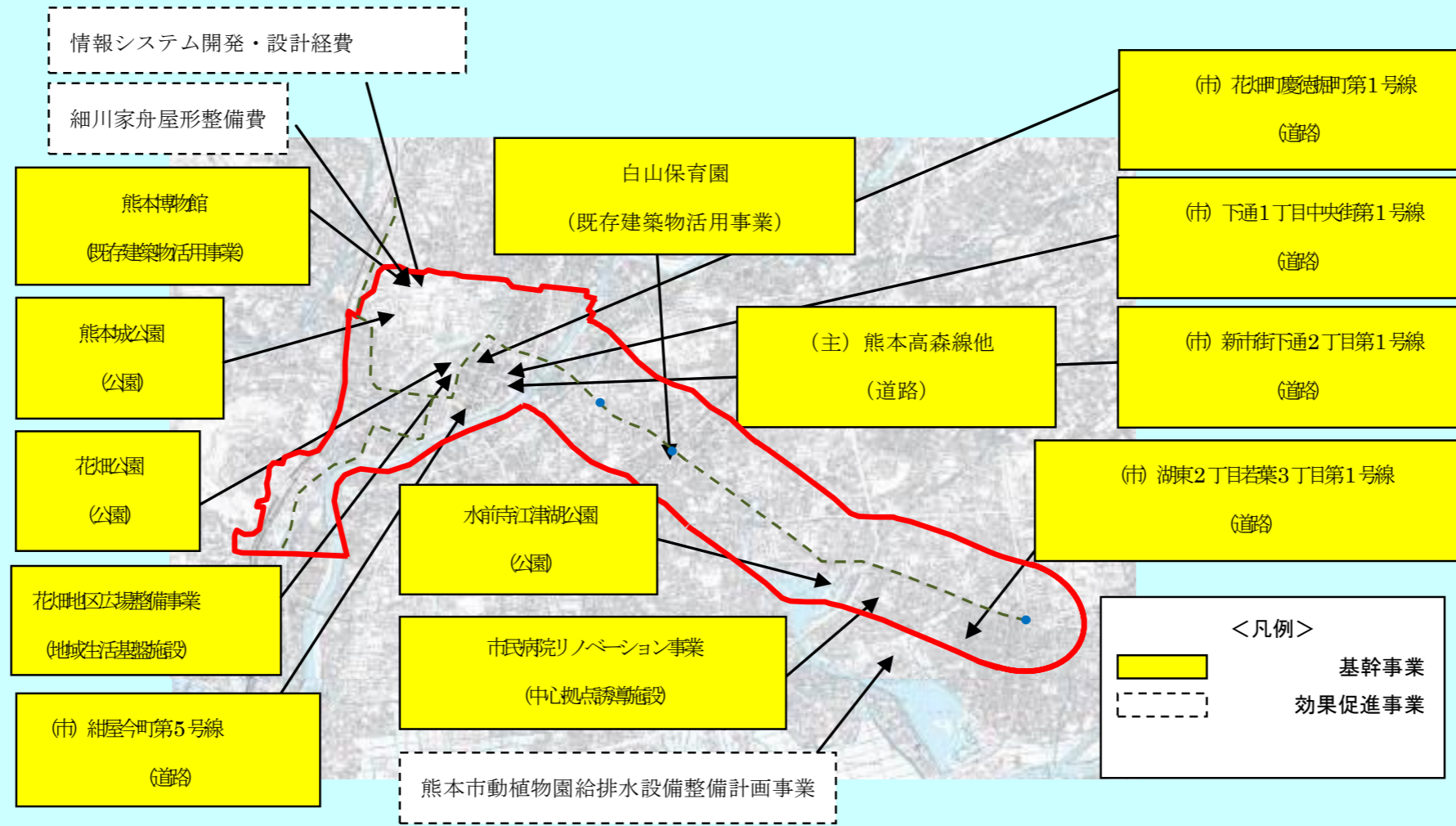
都道府県名	熊本県		市町村名	熊本市		地区名	熊本型コンパクトシティ形成地区			面積	954ha		
交付期間	平成24年度～平成28年度		事後評価実施時期	平成28年度		交付対象事業費	4,449百万円	国費率	0.5				
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	(市)花畑町慶徳堀町第1号線、(市)新町3丁目第3号線外1路線、(市)紺屋今町第5号線、(市)下通1丁目中央街第1号線、(市)新市街下通2丁目第1号線、(市)湖東2丁目若葉3丁目第1号線、(主)熊本高森線他、水前寺江津湖公園(神水本町地区)、熊本城公園(宮内地区)、花畑地区広場整備事業、熊本市市民病院リノベーション事業									
			効果促進事業 提案事業										
	当初計画から削除した事業		基幹事業	(市)新町3丁目第3号線外1路線、(市)下通1丁目中央街第1号線、健軍保育園	削除/追加の理由		○道路については、事業の精査により整備を見送ったもの ○健軍保育園については、立地適正化計画の策定に伴い、都市再構築戦略事業の適合区域が確定したため、整備を見送ったもの。					影響なし	
			効果促進事業 提案事業										
	新たに追加した事業		基幹事業	花畑公園、熊本博物館、白山保育園、健軍保育園	削除/追加の理由		○「花畑公園」については、本市の中心市街地の再デザインの核である地区において、シンボルプロムナードと一体的に整備することにより、中心市街地の賑わいの創出への寄与が期待され、計画区域内人口の現状維持に寄与することが期待されたため。 ○「熊本博物館」、「白山保育園」、「健軍保育園」については、教育文化施設、社会福祉施設の整備により、計画区域内人口の現状維持に寄与することが期待されたため。					まちづくりの目標にプラスの効果があると考えられる	
効果促進事業 提案事業			熊本市動植物園給排水設備整備計画事業(仮)、情報システム開発・設計経費、細川家舟屋形修復等経費	削除/追加の理由		○「熊本市動植物園給排水設備整備計画事業(仮)」については、江津湖周辺の環境保全、生活環境の向上を図り、計画区域内の人口の現状維持及び市電の年間利用者数の増加に寄与することが期待されたため。 ○「情報システム開発・設計経費」、「細川家舟屋形修復等経費」については、博物館と一体的に整備することで、博物館の整備効果を促進することが期待されたため。					まちづくりの目標にプラスの効果があると考えられる		
交付期間の変更	当初	平成24年度～平成28年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-							
	変更	なし											
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	指標1	計画区域内居住人口	人	102,704	平成24年4月	102,704	平成29年4月	モニタリング	評価値	○	あり ●	基幹事業実施に伴う効果発現により、計画区域内の都市機能及び生活環境が向上し、計画区域内の居住人口の増加につながった。	平成29年4月
	指標2	市電利用者数	千人/年	10,194	平成23年度	10,525	平成28年度	—	11,030	○	あり ●	道路改良による市電へのアクセス環境の向上及び電停改良(関連事業)による市電の利用環境の向上により、市電利用者の増加につながった。	平成29年4月
	指標3										あり ●		
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	その他の数値指標1	「安全に道路を歩くことができると感じる市民の割合」	%	28.3	平成23年度			—	30.6			道路改良、道路照明の更新に伴う効果発現により、数値上昇に寄与した。	平成29年4月
	その他の数値指標2	「公園が使いやすいと感じる市民の割合」	%	45.0	平成23年度			—	46.4			公園整備による効果発現により、数値上昇に寄与した。	平成29年4月
	その他の数値指標3	「中心市街地ににぎわいがあると感じる市民の割合」	%	36.9	平成23年度			—	40.3			花畑地区広場整備に伴う効果発現により、数値上昇に寄与した。	平成29年4月
4) 定性的な効果発現状況	—												

		実施内容	実施状況	今後の対応方針等
5)実施過程の評価	モニタリング	—	都市再生整備計画に記載し、実施できた	
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	
	住民参加プロセス	—	都市再生整備計画に記載し、実施できた	
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	
	持続的なまちづくり体制の構築	—	都市再生整備計画に記載し、実施できた	
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	

様式2-2 地区の概要

熊本型コンパクトシティ形成地区(熊本県熊本市) まちづくり交付金の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
	指標	単位	従前値	時期	目標値	時期	評価値	時期
大目標 : 多核連携型都市(熊本型コンパクトシティ)の実現を目指す。	計画区域内居住人口	単位:人	102,704	平成24年4月	102,704	平成29年4月	104,830	平成28年4月
	市電の年間利用者数	単位:千人/年	10,194	平成23年度	10,525	平成28年度	11,030	平成27年度
目標-1 商業・業務・文化など様々な機能が集積する中心市街地と、行政・医療・商業など地域の生活サービス機能が充実した地域拠点を核として、これらをつなぐ基幹公共交通軸沿線の居住誘導を図る。								
目標-2 中心市街地と地域拠点を結ぶ基幹公共交通軸の利便性と利用環境の向上を図る。								



まちの課題の変化 ○立地適正化計画における都市機能誘導区域においてモデル的に選定した当該計画区域においては、事業により効果が発現しているところである。しかし、当該計画区域外の都市機能誘導区域においては、都市機能が充足していない区域もあることから、今後、これらの機能を確保するため新たな施策により積極的に誘導する必要がある。
○市電の利用者は増加したが、公共交通機関全体の利用者は減少傾向にあるため、持続可能な都市交通体系の構築が必要である。

今後のまちづくりの方策 (改善策を含む) ○立地適正化計画における現在の取り組みに加え、誘導施設の立地状況や人口動態等の社会情勢に応じた新たな施策によって、誘導施設の維持・確保を図る。
○公共交通機関全体の利用者の増加を図るための、都市交通体系の構築を行う。